

提 言

多職種と連携した小児保健活動実践の輪を拡げよう

Expand the Network for Child Health Care Practice through the Multidisciplinary Cooperation

岡 敏 明 (医療法人徳洲会札幌徳洲会病院小児科部長)

20年近く務めさせて頂いた「小児保健研究」誌の編集委員を、次の方にバトンタッチしました。これまでの小児保健研究誌投稿論文を振り返ると、さまざまな職種の方々が連携し、子どもや家族支援のために多様な活動をされてきたことが伝わります。「小児保健」という領域自体が、子どもやご家族の健やかな暮らしを支え守る、実践活動を基本としています。これまでもさまざまな領域で、さまざまな職種の人々が連携し、子どもの健康や幸せ、ご家族の支援に尽力されてきました。

難病児と家族・家族会支援、在宅医療支援、発達障害児と家族支援、事故予防活動、感染症予防対策の実践、病棟保育/病児保育支援・・・等々。今もさまざまな場所で実践活動をされている、医師や看護師、保健師、保育士、教育・研究者、ボランティアさん、家族会メンバーなど、たくさんの方々のお顔が浮かびます。それぞれの方々の実践活動継続に対して、敬意と感謝を伝えたいと思います。

保健活動の実践を行ううえで、多職種との連携を拡げることが大切です。私もがんの子どもを守る会や血友病患者会の支援、病棟保育の普及・支援活動、事故予防活動などを、多職種の方々と連携し、実践してきました。これらの活動を行うことで、学ぶことも多く、充実した思いも感じてきました。「させて頂く」という言葉がふさわしい、充足した、遣り甲斐のある時間を頂いてきたと思います。

今は現場の仕事で忙しい医療関係者の中には、多職種と連携した小児保健活動の実践に関わる機会や余裕、興味自体も少ない方が多いかもしれません。しかし小児保健活動を実践することの大切さや達成感を、それらの方々にも、伝えたいと考えています。現在、現場で実践活動をされておられる皆様も、その活動の素晴らしさを、周囲や次世代の方々に伝え、活動の輪を拡げて頂きたいと思います。新しい世代も加わり、子どもの健康や幸せを守る活動の輪が拡がるのが、社会や地域を良くすることに繋がります。周囲や次世代に、小児保健活動の魅力や遣り甲斐を伝え、活動の輪を拡げられるよう頑張りましょう。

